

Jurgenne H. Primavera, Resurreccion B. Sadaba, Ma. Junemie H. L. Leбата, Jon P. Altamirano. 2004. Handbook of Mangroves in the Philippines-Panay Southeast Asian Fisheries Development Center Aquaculture Department, Iloilo, Philippines, 106pp

訳 倉田 麻里 (イカオ・アコ現地駐在員)

Introduction

マングローブ種は、間潮帯のみ、又はほぼ間潮帯にしか見られない樹種のことを指し、準マングローブ種は、高潮帯に位置するマングローブ林に近い海岸林の中又は、海岸林との境目に位置するマングローブ林の中で見られる種のことを指します。世界には 20 の科に属す約 70 種のマングローブ種が分布し、そのうちインド・太平洋地域には 60 種が、フィリピンには 35~40 種が見られます。フィリピン国内で、狭い範囲に最も多くの種が見られる場所として、アクラン州イバジャイ、バトナイスド、ブグトングが挙げられ、そこでは 72 ヘクタールのパッチに 27 種のマングローブが見られます。

マングローブとは、高木、低木、ヤシ、草本、シダにまたがる高等植物に属し、①熱帯・亜熱帯の間潮帯に優先し、②高濃度の塩分と酸素欠乏の土壤に適応を示し、③海水にさらされても大丈夫な繁殖器官を持つ植物を指します。また、広くマングローブ群落を指すこともあります。マングローブは水温 24 度以上の温かいところに見られます。ある樹種は繁殖に一定の塩分を必要としますが、生育に必ずしも海水を必要としない樹種もあります。高塩分地帯に成育することができる樹種は、成長は遅いものの、他の塩分に適応しない樹種との競争を避けることができます。マングローブは塩分を細胞内の代謝器官から排除することによって生育しています。排除の方法としては、①根からの塩分の吸収を防ぐ、②根や葉に存在する分泌腺から塩分を分泌する、③塩分を古い葉や樹皮・木部に蓄積するなどがあります。マングローブの範囲は潮の流れがどれだけ遠くに繁殖器官または種子を運ぶことができるかどうかで決まります。マングローブは、三角州や潟、湾、河口などにみられる砂の混ざった泥地で最もよく育ちますが、砂地やサンゴの積った土壤、PEAT のような堅い土壤で、しかも水がたまっていて酸素が欠乏していることが多いところでも育ちます。

このような厳しい条件に適応し、地上のバイオマスを支えるために、マングローブは多様な特徴をもった根を発達させています。たとえば、ヤエヤマヒルギ属の種ではたこ足型の根っこを持っていますし、ヒルギダマシ属ではペンの様な形の気根を持っていますし、マヤプシギ属では三角錐の気根を発達させています。これらの根っこは大きな気孔を持っており、大量のガス交換を可能にしています。乾燥に耐え水分の消費を節約するために、

葉は厚く葉の裏にはクチクラが発達し、肉厚な葉を持っています。マングローブは苗木が定着することができる浅瀬の保護された海岸にも生育できます。興味深いことは、マングローブの中には胎生種子（母木に実っている間に発芽を開始する種子）を持つものがあるということです。この性質は、厳しい条件での種子の定着を助けています。

マングローブはその生育地によって分類することができます。生息地は、海岸線、洗い流された小島（高潮時には完全に水面下に沈む小さな島）、河口に近い川・水路沿いの土手、内部・後背マングローブ（まれにしか潮の流れが届かない地域）に分けられます。河口周辺の位置としては、流れが川を遡っているところ、中間のところ、下っているところに分けられます。潮間帯の位置は、低地・中間・高地に分けられます。マングローブの典型的な特徴として、ゾーネーションが挙げられます。つまり、間潮帯の位置と河口の位置によって1、2樹種のみ純林が形成されるということです。

小舟で旅行をする人たちは、パナイやフィリピン中の小島に近づいた時、ヒルギダマシとマヤプシギからなる純林に迎えられることでしょう。背が高く、深緑色の様相のマヤプシギとは対照的に、ヒルギダマシは背が低く黄緑色の葉を持っています。他の純林を形成する樹種としては、低地潮間帯に生育するヤエヤマヒルギ属、中間から高地潮間帯に生育するオヒルギ・コヒルギ属が挙げられます。*Lumnitzera racemosa*, ホウガンヒルギ属、*Heritiera littoralis*, *Excoecaria agallocha* は高地間潮帯に生育する樹種です。*Pemphis acidula* は岩場の海岸線やヒルギダマシ-マヤプシギ林の外側の砂浜に生育します。このような典型的なパターンには例外も存在し、特に、人の手が入ったマングローブ林やゾーネーションの形成を妨げるような狭い入り江などでは、ゾーネーションは見られません。